

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：23102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370487

研究課題名(和文)複数の言語地理学資料の比較・総合の推進に関わる研究

研究課題名(英文)A study to promote comparison and integration of different geolinguistic datasets

研究代表者

福島 秩子 (Fukushima, Chitsuko)

新潟県立大学・国際地域学部・教授

研究者番号：80189935

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：時を隔てて行われた言語地理学調査資料を比較した。徳之島方言では、地域差維持、方言形の拡張、方言形の消失、新方言形の出現の4パターンがあった。三つの老年層の全国調査と若者の資料との比較で、新潟方言で西日本的語形の伝播が東日本的語形により阻まれた例と進行中の変化が見つかった。新潟方言の準体助詞(「あるのは」「行くのだろう」)について個別地図と集計地図の作成を行い、変化の方向を推定した。また、徳之島方言の壮年層調査により一段活用動詞連用形における新形式の台頭や方言敬語の活用形の消失について報告した。徳之島における否定の意思を表わす形式(動詞の連用形+「ある」の否定形)の存在と分布状況を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The data from geolinguistic surveys conducted decades apart were compared. Tokunoshima dialects showed four patterns: maintenance of variation, expansion of dialectal forms, disappearance of dialectal forms, and emergence of new forms. Based on the data of elderly from three national surveys and recent data of the youth, Niigata dialects showed two patterns: changes in the past and changes in progress. Linguistic maps both individual and integrated were made with the focus on quasi-nominal particles in Niigata dialects to infer the direction of changes. The survey of middle aged in Tokunoshima showed the expansion of new forms and disappearance of dialectal honorific forms. The existence and distribution of a form meaning negative volition in Tokunoshima was reported; the form consists of an adverbial form of a verb and a negative form of ARU "exist".

研究分野：方言学、社会言語学

キーワード：言語地理学 経年変化 地図の比較・総合 新潟方言 徳之島方言 言語変化 準体助詞 動詞活用

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は1983年にパソコンを利用した言語地理学データ処理システム SEAL を開発し、機器の進歩に応じてシステムを改訂し公開してきた。日本語方言の分析のみならずイングランド方言データの計量方言学的分析を行った。また、多言語対応の英語版 SEAL を公開し、国内外の方言研究者に利用された。2007年の国立国語研究所国際シンポジウム「世界の言語地理学」において研究代表者は一日目のコメントーターを務め、世界の言語地図作成の現状と課題をまとめなおす中で、コンピュータを使った言語地理学の位置づけと意義を再確認した。その後、異なる言語地図を比較・総合する手法や言語地図をどう読むかなどについて研究発表・論文発表し、言語地図の多角的利用の可能性を追求してきた。

2. 研究の目的

研究代表者はパソコンを利用した言語地理学データ処理システム SEAL を開発、マニュアルを出版、プログラムを公開するとともに、実際の調査資料への適用結果を発表して、「パソコンによる言語地理学」を提唱した。言語地理学におけるコンピュータの利用のメリットとして、電子化データの再利用・共同利用の可能性、多数の言語地図データの総合などがある。後者のうち統計学を駆使した分析は、欧米の方言学で Dialectometry (計量方言学) として盛んに行われている。研究代表者は、初期の SEAL から存在している機能を利用・拡張した言語地図の総合を長年実践し、日本語方言研究における計量方言学の一翼を担って来た。本研究では、調査地域が重なり調査時期の異なる言語地図など、複数の言語地図の比較・総合することにより、言語変化の軌跡を跡付け、変化の進行状況を捉えることを目的として、研究を推進する。

3. 研究の方法

異なる言語地図の比較・総合にはいくつかの方法があるが、同じハンコを使って言語地図を描くことが基本である。すでに公開されている過去の調査データと新しい調査データのような、調査地域が重なり調査時期が異なる複数の言語地図を比較・総合することにより、言語変化の進行状況を明らかにする。全国調査である日本言語地図(LAJ), 方言文法全国地図(GAJ), および最新の全国方言分布地図(FPJD)を比較するほか、その他のローカルな言語資料なども利用して、言語変化を跡付ける。

4. 研究成果

研究期間に行われた研究成果は以下の三つの観点からまとめられる。

(1) 経年変化を追うために、時を隔てて行われた二つ以上の調査の言語地図の比較研

究を徳之島と新潟について実践した。1976年の徳之島全島調査と2008年の再調査、二つの調査結果を比較すると、以下の4つのパターンがあることがわかった。A 地域差維持、B ある方言形の分布の拡張、C 伝統的方言形の消失、D 新方言形の出現。時を隔てて行われた三つの全国調査(LAJ, GAJ, FPJD)により辿る実時間変化と、大学生の方言調査データ(CS)とFPJDにより辿る見かけ上の変化から、新潟県方言について二つの対照的なパターンが見つかった。一つは、西日本の語形の伝播が共通語でもある東日本の語形により阻まれた例、もう一つは進行中の変化である。

(2) 準体助詞に注目した言語地図の総合を行った。GAJ及びFPJDについて準体助詞の個別地図、語形ごとに集計した総合地図の作成を行い、語形変化の方向を推定した。

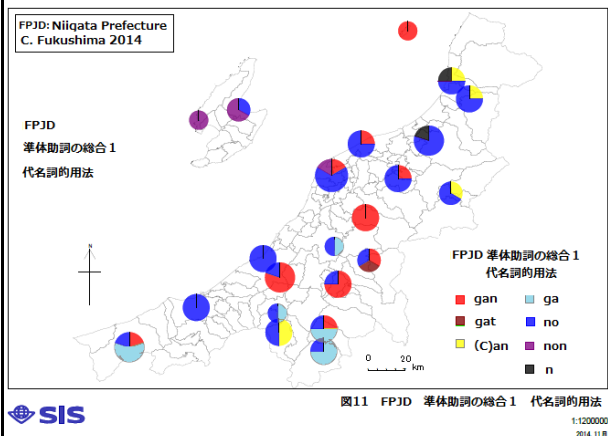


図11 FPJD 準体助詞の総合1 代名詞的用法
1:1200000
2014.11.18

図 FPJDにおける準体助詞の総合:代名詞的用法 (福嶋秩子「新潟県における準体助詞の分布と変化 GAJとFPJDを比較して」(H27)より引用、GISソフトSISを用いて作成)

(3) 徳之島方言における進行中の変化について調査分析を行った。

壮年層対象の全島面接調査に基づき地図化を行い、一段活用動詞連用形における新しい形式の台頭や方言敬語の活用形の消失などについて報告した。

否定の意思を表わす形式(動詞の連用形 + ari (ある) の否定形)の存在とその現在の分布状況を明らかにし、島内で最も古い araN から、anaN、naN への変化が進行中であること、亀津・亀徳では arai という形式が生まれていたことを示した。

徳之島の老年層調査で、浅間で規則変化第二類であった動詞が、犬田布では規則変化第一類に合流していることを明らかにし、これが、ラ行五段化のプロセスの一部であり、琉球方言では、ラ行五段化が否定形でまず進行し、連用形では遅れて進行していることを先行研究にもとづく地図化により示した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

Chitsuko Fukushima. Tracing real and apparent time language changes by comparing linguistic maps. In: *The future of dialects: Selected papers from Methods in Dialectology XV*. (Edited by Marie-Hélène Côté, Remco Knooihuizen and John Nerbonne) Language Science Press. 363 - 376. <http://langsci-press.org/catalog/book/81> (2016年2月) 査読有

福嶋秩子「新潟県における準体助詞の分布と変化 GAJ と FPJD を比較して」『国立国語研究所 共同研究プロジェクト方言の形成過程解明のための全国方言調査 研究発表収録 2014』157-165 . (2015年2月) 査読無

福嶋秩子「新潟方言の推量表現における -an 形について」『ことばとくらし』26号 横 41-50. (2014年10月31日) 査読無

Chitsuko Fukushima. Regional variation and change of quasi-nominal particles in Japanese dialects. *Papers from the Second International Conference on Asian Geolinguistics*. 32-40. (2014年10月) 査読無

福嶋秩子「奄美徳之島方言における否定の意思を表す形式の消長」『国際地域研究論集』No.5 (2014) 75-87. 査読無 (2014年3月30日)

Chitsuko Fukushima. Revisiting regional variation on an island after thirty years. *Proceedings of Methods XIV: Papers from the Fourteenth International Conference on Methods in Dialectology, 2011*. Peter Lang. 305-314. (2013年12月) 査読有

Chitsuko Fukushima. Dialect Lexicography in Japan. *Dialectologia* Special Issue IV (2013) 77-90. (2013年12月) 査読有

Chitsuko Fukushima, Maria Pilar Perea, Eveline Wandl Vogt. Dialect Lexicography. *Dialectologia* Special Issue IV (2013) 1-4. (2013年12月) 査読有

Motoei Sawaki, Yumi Nakajima and Chitsuko Fukushima. Standardization

and Dialect Leveling in Tokunoshima. *Working Papers from NNAV Asia-Pacific 2*. <http://www.ninjal.ac.jp/socioling/nw/avap02/working-papers.html> 1-8. (2013年4月2日) 査読有

[学会発表](計 17 件)

福嶋秩子「新潟県の方言資料に見る準体助詞」第 81 回新潟県方言研究会 情報交換. アトリウム長岡、新潟県. (2016年3月27日)

Chitsuko Fukushima. Sun in Asia. 2015 年度第 2 回「アジア地理言語学研究」共同利用・共同研究課題研究会. 東京外国語大学、東京都. (2015年12月19日)

Motoei Sawaki, Yumi Nakajima, Chitsuko Fukushima. Practical and Academic Assets of Multimedia Dialect Dictionary Based on Sentence-based Corpus. SIDG '15. 東地中海大学、ファマグスタ(北キプロス). (2015年9月18日)

Chitsuko Fukushima. Reorganization of Verbal Conjugation System in Japanese Dialects: a Case Study in Tokunoshima Dialects. SIDG '15. 東地中海大学、ファマグスタ(北キプロス). (2015年9月18日)

福嶋秩子「FPJD で見る新潟方言の共通語化と新しい方言の広がり」第 79 回新潟県方言研究会 情報交換. アトリウム長岡、新潟県. (2015年3月29日)

福嶋秩子「新潟県における準体助詞の分布と変化 GAJ と FPJD を比較して」言語地理学フォーラム. 富山大学、富山県. (2014年11月30日)

Yumi Nakajima, Chitsuko Fukushima. Challenge and Potential of a Dialect Dictionary: Edited from a Sentence-based Corpus. 方言語彙論と方言辞書学国際会議. 科学アカデミー言語研究院、サンクト・ペテルブルグ(ロシア). (2014年10月22日)

福嶋秩子「都市化と敬語(そして方言): 札幌敬語調査を振り返る」第 156 回変異理論研究会. 北海道大学、北海道. (2014年10月18日)

福嶋秩子「新潟県における準体助詞の变化形の分布とその総合」第 78 回新潟県方言研究会 研究発表. アトリウム長岡、新

潟県. (2014年8月31日)

Chitsuko Fukushima. Tracing real and apparent time language changes: Linguistic maps and GIS. 15th International Conference on methodology in dialectology (Methods in Dialectology XV). フローニンゲン大学、フローニンゲン(オランダ). (2014年8月12日)

Chitsuko Fukushima. Regional Variation and Change of Quasi-Nominal Particles in Japanese Dialects. The 2nd International Conference on Asian Geolinguistics (ICAG-2). チュラロンコン大学、バンコク(タイ). (2014年5月24日)

福嶋秩子「新潟方言における準体助詞の分布 最近の調査から」第77回新潟県方言研究会 情報交換. アトリウム長岡、新潟県. (2014年3月30日)

福嶋秩子「新潟方言の推量表現における -an 形について」平成25年度新潟県ことばの会研究集会 研究発表. 新潟大学、新潟県. (2013年11月24日)

福嶋秩子「GAJ/全国方言分布調査/短大生調査の比較」第76回新潟県方言研究会 情報交換. アトリウム長岡、新潟県. (2013年8月25日)

福嶋秩子「言語地図の作成方法と分析方法」「言語地図の総合と比較」台日言語地理学学術交流ワークショップ 招待講演 台湾師範大学文学学院、台北(台湾). (2013年8月6日)

福嶋秩子「奄美徳之島における 否定の意思を示す形式をめぐって」国立国語研究所共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」共同研究発表会. 国立国語研究所、東京都. (2013年7月27日)

Chitsuko Fukushima. Inference Forms in Niigata Dialect: A Preliminary Report. First Annual Meeting of the Asian Geolinguistics Society of Japan. 青山学院大学、東京都. (2013年6月14日)

〔図書〕(計 3件)

小谷一明・黒田俊郎・水上則子編『国際地域学入門』勉誠出版(2016年3月31日)(共著 福嶋秩子 分担執筆「言語と文化の多様性」94-107)

福嶋秩子『異なる言語地図の総合と比較 その3』新潟県立大学・科学研究費報告書(2016年3月20日) 42ページ

佐藤武義・前田富祺他編『日本語大事典』朝倉書店(2014年11月6日)(共著 福嶋秩子 項目執筆「糸魚川言語地図」「ヴェンカー」「言語地理学の方法」「ジリエロン」「等語線」「ドーザ」「波状説」「方言境界線」)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

言語地理学のへや
<http://www.unii.ac.jp/~chitsuko/inet/>

A Room for Linguistic Geography
<http://www.unii.ac.jp/~chitsuko/english/>

6. 研究組織
(1) 研究代表者
福嶋 秩子 (FUKUSHIMA, Chitsuko)
新潟県立大学・国際地域学部・教授
研究者番号: 80189935

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者
鎌水 兼貴 (YARIMIZU, Kanetaka)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト非常勤研究員(平成25年度)
研究者番号: 20415615